武田君への「無期停学」処分撤回！

1・20法大デモへ

◆ 1・20法大デモ

2016年1月20日（水）12:30

法大市ヶ谷キャンパス外濠門前集合

◆ 武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判（控訴審・第2回）

2016年１月20日(水) 14:30～ 東京高裁822号法廷にて

2016年1月20日の武田君処分撤回裁判（控訴審）と法大デモへの結集を全てのみなさんに訴えます。

韓国で12月16日、完成自動車メーカー3社など15万の金属労組をはじめ民主労総が今年４度目のゼネラルストライキに突入しました。民主労総はさらに連続的な」ゼネストを闘い抜くと宣言しています。「パククネ政権打倒」「非正規職撤廃・労働改悪阻止」「公安弾圧粉砕」を掲げた韓国・民主労総のゼネストは、国境を越えた労働者の団結とストライキこそ、戦争を止め人間が人間らしく生きていける社会をつくり出していける展望を示しています。

韓国の闘いと連帯し、日本でもゼネストを巻き起こし安倍政権を打倒しよう。１・２０法大デモと武田処分撤回裁判への結集をみなさんに呼びかけます。

（写真上）16日、ソウル、京畿、江原、仁川など全国12ヶ所でゼネスト大会を開いた。（写真下）渋谷でも韓国ゼネスト連帯集会。

◆2016年法大闘争勝利！武田処分撤回へ！

武田処分撤回裁判は2012年10月23日に現法政大学文化連盟委員長、武田雄飛丸君（上写真）に下された「無期停学」処分の撤回を法大に求めるものです。

彼の処分理由は「授業妨害」と「業務妨害」です。前者は原発御用学者の授業を「聴講して批判しよう」と呼びかけた武田君を教室から強制排除した法大当局に、彼が抗議した事、後者は武田君が2012年10月19日に「学祭規制反対」と「御用学者追放」を掲げて昼休み中に1000千名集会を行った事を指しています。

この処分の背景には「法大闘争」があり、武田君は2010年に法政大学に入学して以来、この闘いを最先頭で担ってきました。

法大闘争は、2006年3月14日、学生自治の破壊・管理強化の一環であるビラまき規制に反対して抗議デモを行った学生29名全員が、公安警察によって逮捕され、さらに中心となった法大生5名に停学・退学処分が下されたことに対し「処分撤回」を掲げて始められました。

以来、法大当局は「営業権」「施設管理権」を侵害するものとして、ビラまきはもちろん、演説、集会、デモ等の

文化連盟 法政大学文化連盟(委員長・武田雄飛丸)

【メール】bunren08@yahoo.co.jp 【ＨＰ】http://08bunren.blog25.fc2.com/

あらゆる政治、表現活動を禁圧し、
これに抗議する学生を公安警察と共に徹底的に弾圧してきました。

◆「一人の仲間も見捨てない」文連と共に闘おう！

08年には文化系サークルの連合体、文化連盟が非公認化され、サークルの公認権も予算権も全て法大当局が握る事になりました。
しかし激しい弾圧の中で文化連盟は「一人の仲間も見捨てない」「処分撤回」「規制粉砕」「新自由主義大学打倒」を合言葉に決起し、全学連と共に今日にいたるまで126名の逮捕者、34名の起訴者、13名の処分者を出しながらも、不屈に闘い続けています。

法大闘争は公安警察の全面的な加担に示されるように、法政大学という一大学だけでなく、学生自治を破壊し、国家と独占資本によるキャンパス支配を強化する事で、大学を国策遂行と営利追求の場に純化せんとする国策との闘いです。

実際、武田君への暴行でっち上げ公判では、彼が文化連盟、全学連の情宣活動を逐一盗撮する法大当局に抗議し、「壊した」とされるビデオカメラの映像が、日常的に公安警察に提供されていた事が、公安刑事自身の証言で明らかになりました。要は法大当局は公安の情報収集活動に積極的に加担した挙句、抗議されるや否や「器物破損」で学生を公安に売り渡したわけです。しかも抗議する武田君を囲んで、職員が複数人で揉みくちゃにしていた為、彼がビラオカメラを「壊した」と証明する事さえ出来ませんでした。だから「腕をつかんだ」「体を押した」等とさらなる言いがかりをつけ、公安、検事と結託して、容疑を「暴行」を切り替えたのです。

にもかかわらず裁判所は12月3日に武田君を有罪とする不当判決を下しました。断じて許せません。

1000人が結集した2012年10･19法大キャンパス集会

◆京大に続き全国大学ストへ

今日、大恐慌とそれに伴う国際争闘戦の激化が、市場、資源、領土をめぐり、中東とウクライナで軍事的衝突にまで発展しており、あらゆる帝国主義国が自らの延命をかけ、この強盗戦争に噛み込もうとしています。安倍政権もまた中国、北朝鮮の脅威を煽って、東アジアで戦争挑発を行う一方、11・13パリ事件をうけ「テロとの闘い」を声高に叫び、中東への参戦を狙っています。

その為に安保法の成立等、戦争のできる国家体制が急ピッチで構築され、大学においては軍事研究協力、経済的徴兵制、文系改廃、日の丸、君が代の強制、学費大幅値上げ等の戦争動員攻撃が行われているのです。
これらは全て法政大学の学生弾圧に象徴される大学の腐敗を根拠にしています。そして武田君処分が端的に示すように大学の原子力ムラ化も同様です。

現に法政大学は田中優子総長先頭に安倍批判を行い「リベラル色」を売りにする一方、安倍の「大学改革」を推進する事で、文科省から「スーパーグローバル大学」認定を受け、毎年一億五千万から最大四億円の補助金を受け取っています。国策に迎合し、学生が声を上げる事を一切許さず、逆らえば警察と一体となって処分、逮捕が当たり前。こうした法政大学のような在り方こそが、安倍の大学政策を支えているのです。

だからこそ学生の団結にのみ依拠し、キャンパスにこだわりぬいて、当局、権力と非和解で闘う法大闘争の中に、安倍の戦争政治を根底から打ち砕く展望があります。

今や、法大闘争10年の地平は、闘う学生自治会と大学ストの復権として全国化しつつあります。沖縄大、広島大で自治会が再建され、京大では昨年の公安摘発に続いて、今年の10月27日、21世紀初のバリストが行われました。ビラ一枚まけず、政治が奪いつくされた新自由主義大学においても、闘えば必ず道が開ける事を法大闘争は示しているのです。

1・20の法大デモの爆発と武田君の処分撤回を勝ち取り、さらなる法大闘争の発展を実現しましょう。その力で学生運動を復権させ、闘う労働運動と共に、安倍打倒のゼネストへ向け進撃しましょう！！